

Interview

理解してくれぬ人が必ずいる

専門学校を卒業後、軽度の発達障がいと診断された市内在住の女性にインタビューしました。周りからの理解が得られずに苦労したことや、どのように乗り越えてきたかについて伺いました。

発達障がいと診断

22歳の頃、発達障がいのことを取り上げているテレビ番組を何となく見ていました。番組を見ているうちに、自分にも当てはまる部分があると感じ、自分自身で病気のことを検査するようになりました。

その後、市の保健師に相談したところ、県の発達障がい者支援センター「ボラリス」を紹介してもらいました。そこで何回かテストなどを受け、病院でも検査を受けた結果、軽度の発達障がいと診断されました。この先どうすればいいのか見えず、悩んだ時期もありましたが、当時働いていた喫茶店を辞めて、精神障害者保健福祉手帳を取得しました。

働き始めて余裕ができた

手帳を取得した後は、就労支援を受け、現在は、自治体の入札業務などを行う会社で勤務し、パソコンの入力などの事務をしています。個人の特性や思い、希望などを聞いてくれる会社なので、働きやすく今は気持ちに余裕ができています。

わかってもらえない辛さがある

私の場合、症状が軽度であるがために、周囲の理解がなかなか得られませんでした。小・中学校の時は、いじめを受けていましたし、友だちと話している時も、怒らせるつもりがなくても勘違いさせてしまうなど、人間関係には苦労しました。

自分自身を理解する

私は、自分の意見を伝えることが苦手です。大きな音を聞くのも苦手です。その場の環境によっては、落ち着かなかつたり、この場に居たくないと思ったりします。

そんな時は、イヤホンを付けて余計な音が入ってこないようにするなど工夫をしています。また、気持ちが高揚しすぎると会話などで失敗することがあるので、落ち着いて行動するように心がけています。そのような工夫をする中で、周囲との衝突が減り、自分の気持ちをうまく伝えられるようになりました。

自分で自分のことをわかってほしいと、変わった気がします。

心配してくれる誰かがいる

私は、親が一番の理解者だと思っています。診断を受けた時も、「障がいがあってもなくても、あなたはあなた」と言い、偏見なくすべてを受け入れてくれました。

障がいのことを考えると不安になる気持ちはよくわかります。でも一人で抱え込んでいても良い方向に向かうのは難しいと思います。誰かに聞いてもらうことで、アドバイスをもらうことができます。

私と同じような悩みを抱えている人が居たら、すぐに周りの誰かに相談してほしいです。



29歳・女性

発達相談利用者の声 具体的なアドバイスが子育ての安心に 50歳代・女性

第2子の妊娠中に、第1子の育てにくさなどを感じたことがきっかけで、発達相談を受けることに。その頃は、今ほどインターネットで情報を得られなかったので、不安な気持ちを保健師に相談したところ、のびのび教室を紹介してもらいました。同じ悩みを抱える親や保育士と話すことで、気持ちが楽になっていきました。

その後、自分の子どもが発達障がいと気づき、発達相談員と相談し、子どもの発達について詳し

く教えてもらいました。対面での相談では、具体的なアドバイスがもらえ、相談後のフォローもしっかりしてもらえたので、継続して10年ほどのお付き合いができました。

「発達相談」と聞き、「なぜ自分の子が」と受け入れることに抵抗感があるかもしれませんが、私自身は、発達相談を受け、子育ての安心につながったので、皆さんにも利用していただければと思います。

保健師から



子どもを授かった親の多くは、我が子をいとおしく思い、大切に育てています。しかし、子どもにもそれぞれ意思があり、一人の人間を育てていくのは、簡単なことではありません。特に子どもの発達の節目の時期に、親は成長を感じるとともにやりにくさや育てにくさを感じることも多くなります。また、子どもには一人ひとりが持つ生まれた特性もあるため、育児書どおりにいかず、悩むことも多々あります。

そんな時に、発達相談を受けて、我が子の発達状況や特性について理解し、関わり方を助言してもらおうことで、親子の関係が良くなり、より「子どもがかわいい」「子育てが楽しい」と思えるようになったという声をいただいています。

すべての子どもと子どもに関わるすべての大人へ

また、子どもに関わる大人が子どもの特性や関わり方を知った上で対応することで、子ども自身が家庭だけでなく集団生活の中でいきいきと活動し始めたという人にたくさん出会ってきました。

発達相談は、子どもに何か問題があるというレッテルを貼るのではなく、その子にどのような力がついてきていて、どういうことを苦手としているのかを周りの大人が正しく理解し、その子に応じた関わり方や環境を整えることで、充実した生活を保障していくためのものです。

橋本市に住むすべての親と、子どもに関わるすべての大人が子どもをありのまま丸ごと受け止めることで、子ども一人ひとりが大切にされ、「じぶんいろ」で輝けるまちなれるよう、全力で支援していきます。

発達相談員と

